

1)説明する NGO の範囲について

✓ CBD アライアンス

CBD において「Civil Society」を代表すると認識されている。環境系 NGO(EcoNexus, ETC Group, WWF(local), FoE International, Third World Network, 日本自然保護協会、ラムネット J、野生生物保全論研究会、UNDB 市民ネットなど)だけでなく、女性(UN Women's Caucus)、ユース(Global Youth Biodiversity Network, Change Our Next Decade など)、先住民地域ネットワーク(IPLC)、大学の方々も参加されている。

2)提言内容について

✓ SBSTTA24/SBI3 共通

- ・議論の公平性の観点でバーチャルではなく対面で議論すべき。
- ・権利に基づくアプローチの組み込みが必要。
- ・企業の CBD 介入を排除すべき。

✓ SBSTTA24

5/ 4: 議題 3 GBF

- ・野心不足(ex. 空間計画 50%は不足(100%にすべき)、生物多様性に有害な投資への規制が必要、消費を変えるには生物多様性に有害な生産を避ける法的規制が必要、など)
- ・OECM に ICCAs (Indigenous Peoples' and Community Conserved Areas and Territories)に言及なし。
- ・NbS は CBD で合意された用語でなく、カーボンオフセットで多用され生物多様性に有害。
- ・条約の 3 つの目的についてバランスを取るべき。

5/ 4: 議題 6 海洋沿岸生態系

- ・商業深海掘削を停止すべき。
- ・海の持続可能な利用許容量を超える全ての活動を廃止すべき。
- ・海洋での地球工学を禁止すべき。

5/23: 議題 4 合成生物学

- ・合成生物学は CBD に取って「新規緊急課題」。
- ・学際的技術専門家グループの設立を強く支援。
- ・合成生物学の動向に関連し、将来、社会に大きな影響をもたらす可能性のある変化の兆候をいち早く捉えるために、利用可能な情報を体系的・継続的に収集・分析し、潜在的なリスクや可能性を把握するよう盛り込むべき。

5/24: 議題 5 リスクアセスメント・リスクマネジメント

- ・遺伝子組み換え魚類は、社会経済・倫理的観点でリスクアセスメントのガイダンスが必要。

- ・遺伝子ドライブを用いた遺伝子組み換え生物は潜在的に生物多様性への不可逆的脅威をもたらす懸念があるため、環境放出は見送るべき。

5/24: 議題 7 生物多様性と農業

- ・土壌を用いたカーボンオフセットは許容不可。
- ・大規模工業的農業の悪影響を記載すべき。
- ・アグロエコロジー・アグロフォレストリーを中心に据えるべき。

✓ SBI3

5/17: 議題 6 資源動員・資金メカニズム

- ・緊縮財政や債務が発展途上国の国内資源動員を拘束し、生物多様性の損失につながることに ついて調べるべき。
- ・公的金融・私的金融からの生物多様性を劣化させる工業への資金フローは、自主ガバナンスに任せず法的に規制すべき。
- ・企業の金融政策決定への介入を止めるべき。

5/18: 議題 9 報告・評価・レビュー

- ・標準化すべき。
- ・非政府組織・IPLC・市民社会等が参画するプロセスとすべき。

3)その他の取り組み

✓ ECO(<https://ecocbdalliance.blogspot.com/>)

対面の会議において会議場で配布する CBD アライアンスのニュースレター「ECO」を、今回はブログ形式で公開し、4/26～6/11 に 9 本の記事を掲載した。

以上